



シガラキ・シェア・スタジオの想い



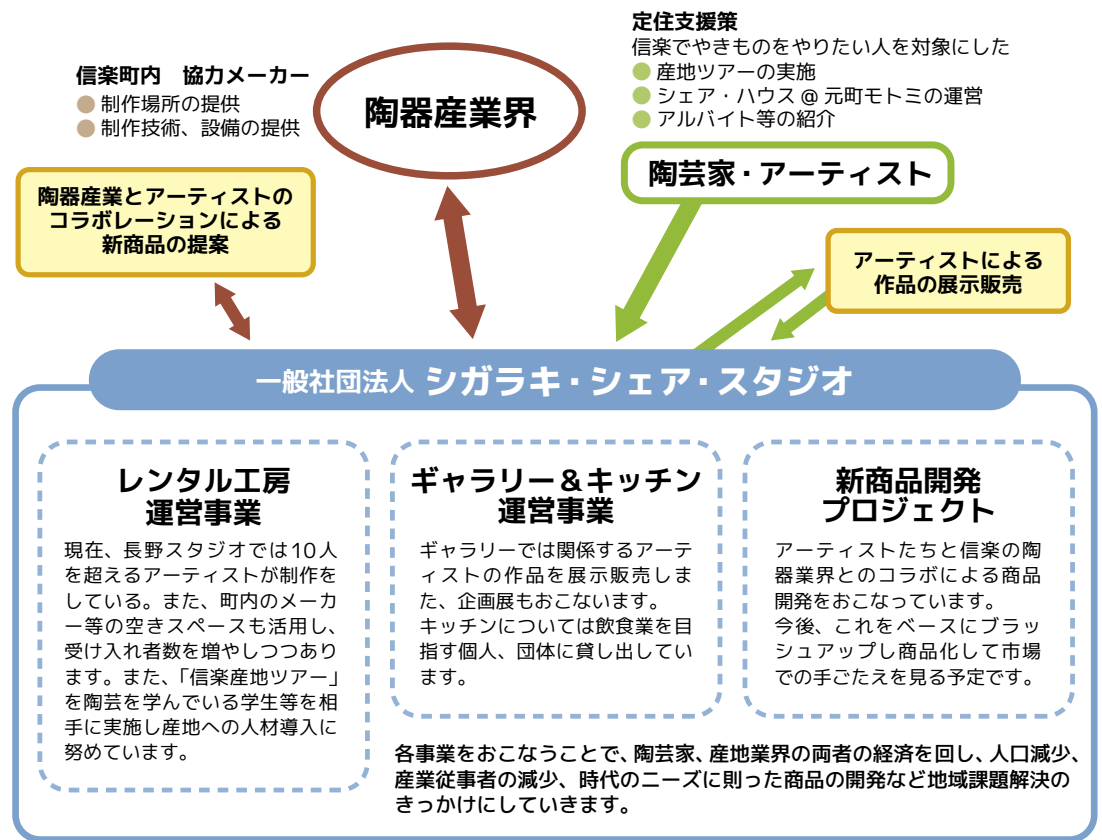
シガラキ・シェア・スタジオは、2016年から共同の陶芸スタジオの運営をはじめ、2018年に法人化、2023年現在、3つの工房を使っており、それぞれでアーティストが作品の制作をしています。

スタジオを、主に外から来るアーティストに貸し出し、長期滞在、暮らせる仕組みづくりの一端を担い、「モノづくりをするクリエイティブな人たち」に信楽の魅力を発信したいと考えています。目指しているのは、陶芸、アートを基軸としたクリエイティブなワークスペースです。

長野スタジオに隣接する店舗は、2021年秋にリフォームし「ギャラリー&キッチン@シガラキ・シェア・スタジオ」として再生しました。

スタジオ、ギャラリー、キッチンを併せ持つことで、いろいろな人が楽しみながら交流できる場所、陶芸を核にしたコ

シガラキ・シェア・スタジオの考え方と事業



セラミック・ワンダーランド

これはシガラキ・シェア・スタジオの主宰者である杉山が2005年1月号の「陶説622号」に寄稿した文章で、シガラキ・シェア・スタジオの考え方の基本となったものです。一読いただければ幸いです。

セラミック・ワンダーランド Ceramic Wonderland

原稿のお話をいただいた時に何を書かせていただくか若干迷った。しばらくして、考えついたのがやきもののテーマパーク「セラミック・ワンダーランド」(?)のことである。もっとも、この「セラミック・ワンダーランド」、あくまでその概念が私の中にあるだけで世に認められた実体としては存在しない。

それでは、私のイメージとしての「セラミック・ワンダーランド」の世界にどうぞ。今の日本のやきものの人口は概ね次のよ



うに分類されると考える。日展や日本工芸会など古くからある業界のシステムにかかわっておられるいろいろな肩書きをお持ちの方。いわゆる前衛を押しとおすベテラン作家たち。大学などで教鞭を執る中堅、そしてこれからやきものを生活の糧としていこうとする若手たち。また別の視点で見ると主として産地で活動するベテラン技術者たちがいることも見逃せない。その産地にかかわろうとするデザイナー、陶芸家たち。それと美術館を拠点とする研究者たち。作家と買い手との間をとりもつギャラリー、バイヤーたち。メディアに属する人たち。以上は、とりあえずプロとよばれている人たちである。そしてそのほかに大学でやき

ワーキングスペースとして、やきものの街 信楽に人を呼び込み、また人が定住でき、育まれるきっかけになるのではと考えています。

地域で収穫した農作物を使った料理教室、陶産地信楽の特性を活かし、うつわを制作されている方と食品関連の仕事をされている方のコラボ、マーケティング調査の会場、将来、飲食店をやりたい人のトライアルの場、さらに、町内会などの地域コミュニティの方も使用していただくなど、様々なことを試みれる場所に育てたい、それがシガラキ・シェア・スタジオの想いです。

一般社団法人シガラキ・シェア・スタジオ
代表 杉山道夫



ものを学ぶ学生たち。各地にある陶芸教室、カルチャーセンターで学ぶ優れたアマチュア陶芸家。以上がおおざっぱではあるが陶芸関連人口の内訳である。

これらの多くの方にながしかの出番が求められるのが「セラミック・ワンダーランド」である。

個人個人の感性が陶芸をやっていくうえで重要なのはあたりまえであるが、優れた環境は創作の可能性を増すからである。「セラミック・ワンダーランド」の環境設定には以下のことが不可欠である。

- 一 原材料が豊富にあり、ほしい材料がすぐに手にはいること。
- 一 いろいろな種類の機材、道具が周りにあり貸し借りができること。
- 一 若手からベテランまで様々な方向性を持った同業の士が周りにいること。
- 一 客観的評価ができる者が周りにいること
- 一 近くに販売網の拠点があること。

こんなものづくりにとって、恵まれた環境ってどこにあるのだろうか。

私にとってもこんな環境は「夢」なのだが、比較的近いのは昭和頃までの「やきもの産地」ではないだろうか。

京都は、五条坂に共同の登り窯があったと聞く。付近に工房を構える陶工が窯が焚かれるたびに製品を持ち寄ってくる。そんな風景は今もうなくなってしまった。

信楽では、登り窯が何十基も煙を上げていた時期があるという。窯焚き職人はそれらの窯を渡り歩いていた。また、窯を築き直すときには、「結い」という焼き屋さん（窯元）の互助組織で皆労力を提供して助け合った。そんな習慣があったそうである。

私のいる信楽についていえば、このころ結構京都から作家さんが焼き屋に入りしていったらしい。焼き屋さんで花器の原型をつくるかわりに自分の仕事をさせてもらったり。先輩方からそのような話はよく聞かせていただいた。焼き屋と陶芸家の非常にゆるやかなシステムできちんと結びついていた。そのような雰囲気があったと聞く。

らのデータ収集も欠かせません。

そして、上記の情報のまとめ役が必要になってきます。

そのようにして、産地の現状把握ができたなら、その情報を皆で分かち合わなくては実業にプラスにはなりません。特に若手への技術、情報の伝授がどうしても必要です。概して、若い人はこんなことには無関心かもしれません。だとしたらそこにある種の仕組みが必要になってくるでしょう。

それと、常に若手を入れて産地の新陳代謝を活発にする必要があります。大学をはじめ多くの教育機関では「やきもの志望者」を量産しています。学生の中で特に優れた人、可能性がある人を産地にリクルートする必要があるでしょう。今の若い人たちは工場に勤めることを求めているように思われます。ということからは、企業（工場）と従業員という従来の関係ではないもつとゆるやかな関係を工場と若い人の間で確立しなくてはなりません。このリクルート作戦には先程述べた産地が持っている物理的な財産、資産が産地の魅力付けに欠かせません。



また、焼き屋さんのなかにも人材育成のシステムがあったように聞く。優れた技術者が、（こわくて気むずかしいおっさんかもしれないが）工場長として現場を仕切っておりきびしいかもしれないが、そこで働いていればやきもののいろんな技術を学ぶことができる。また、生産ラインの一部ではなくやきものづくりの全体像が見渡せるようになっていたのではないかと思います。

なんだか、私も知らない昔の話、しかも伝聞を書いてしまったが、このような環境の中に間違いなく「セラミック・ワンダーランド」の核心があると思うのだからどうであろうか。

私の考える「セラミック・ワンダーラ

常若い人が出入りできる環境、そのうえで産地の中で彼らのレベルアップをはかる教育システムが必要です。これには、先に述べた人的な財産、資産の活用が有効でしょう。

概して産地の中にどっぷりつかっていると、他産地のあるいは有名作家のワークショップなどがよく見えてしまいます。灯台元暗しではないですが、案外身近なところを見逃しやすいように思います。

そして、この若手が作陶、生活しやすいように、なにがしかの援助をできる体制づくり、これは行政の担当部分であるように思います。やきものをつくっていくには、どうしても設備投資が必要になります。可能性がある若手には援助の手を差し伸べられる体制が求められます。

さらに援助を受けた上で、定住してもらえようにするには、自分の作品を販売できる体制、販売網の整備が必要になります。よいやきものをきちんとした価格で世の中に出していく体制が必要になってきます。

こんな環境が整ったら「セラミック・ワンダーランド」ができた、といえるの

ンド」というのは、少し前の「産地」の姿なのですが、いかがでしょうか。

今、確かに景気が悪い。あるいはやきものをめぐる社会環境が変わってしまったこともありすべての環境、システムを「昔どおりのやり方にもどします。」というわけにはいきません。

その前提で私の「夢」の計画を紹介したい。

この文章ができるのは1月号と聞いているので、まだ、「年始め」。これからの私の夢を語っても怒られないでしょう。

まず、産地が持っている財産、資産の確認が必要です。これは大きく二つに分けられます。

ひとつは、物理的なこと。その工房、工場はこんな機材をもっていて、こんな特徴のある製品、作品がつけられる実績がある。そういった工房、工場、関連機関の現状把握が必要だと思います。

もうひとつは、人的資源の確認です。特に60代以上のすでに第一線からリタイアした人について。言ってみれば産地の人材バンクの確立です。優れた技術を持っている方、あるいは昔の話を知っている古老か

ではないかなと思っています。

先に述べたように、産地あるいは地場産業、地域産業、伝統産業といいかえてもよいですが、なかなかむづかしい局面にあると思います。どうしても、新しく生まれてくる産業に行政も社会も目が向いてしまいます。

このような環境の中で生き抜いていくには、あたりまえのことですが、より高品質なオンラインワンのものをつくつていかななくてはなりません。そうすれば、人も集まってくるし流れも変わらと思うのですが、そのための「セラミック・ワンダーランド構想」いかがでしょうか。正夢にしたいと思っています。



長野スタジオ

新しいシガラキを創造する起点



シガラキ・シェア・スタジオの中心にあるのが「長野スタジオ」です。ここを起点に運営し、長期滞在を基本にした、陶芸家、美術家を受け入れています。

シガラキ・シェア・スタジオ 長野スタジオ 概要

1人あたり約25平米のスペースを自由に
使っていただけます。(定員11人)

● 住所

滋賀県甲賀市信楽町長野1140-1

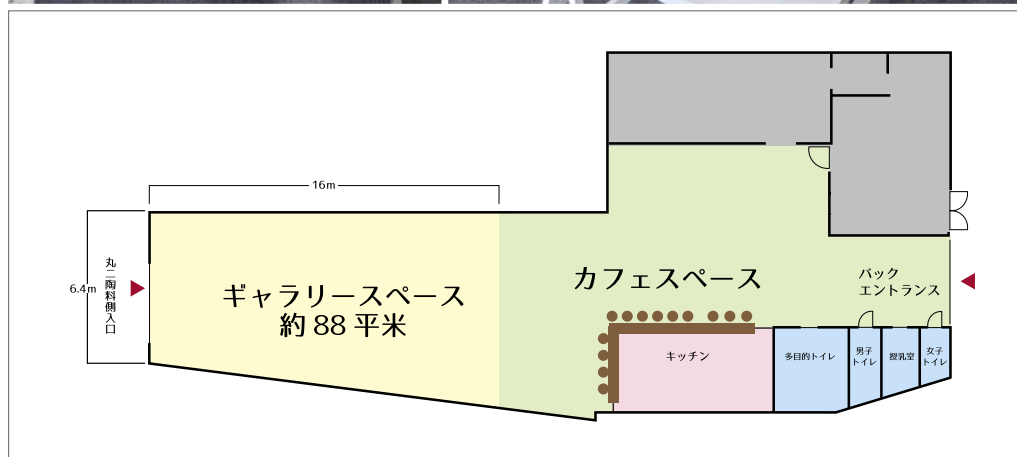
● 建物

鉄骨2階建て及び平屋
(荷物用エレベーターあり)

● 設備

1 立米ガス窯
0.2 立米ガス窯
3 キロ電気窯
4 キロ電気窯
5 キロ電気窯
12 キロ電気窯
15 キロ電気窯
セラローラー
真空石膏攪拌機
コンプレッサー
フォークリフト

など



ギャラリー

幅広いジャンルの作品・製品と出会える場

ギャラリー&キッチン@シガラキ・シェア・スタジオのギャラリーは現代美術・工芸を中心に、幅広いジャンルの作品、製品と出会えるギャラリーにしたいという想いでオープンしました。

シガラキ・シェア・スタジオで制作をしているアーティストの作品を常設で展示し、ショップも運営していきます。また、発表の場を求めている作家、陶器関係者の方にも使っていただきたいと思います。

個展やグループ展、新製品の展示会、イベント、セミナーなどをお考えの方、どうぞお気軽にご相談ください。

ギャラリー&キッチン @シガラキ・シェア・スタジオ 概要

- 住所
滋賀県甲賀市信楽町長野114001
- 展示スペース
全体で約88平米
(レンタルギャラリー部分30~40平米)
- 展示台・パーテーション
各種あり(持ち込みOK)



2023年夏から信楽町長野地区、商店街近くでシェア・ハウスを運営しています。
信楽に移住される方などのスタートラインとして運営していきますので興味のある方はお問い合わせください。

概要

- シガラキ・シェア・スタジオ@**敏峰工房**
設備 0.7立米ガス窯 2立米ガス窯
フォークリフト など
- シガラキ・シェア・スタジオ@**丸倍製陶**
設備 9.02.1立米ガス窯 7.5立米ガス窯
フォークリフト 製管機等 など
- シェア・ハウス@**元町モトミ**
部屋割等
ダイニングキッチン+個室5部屋、風呂場、トイレ など

シガラキ・シェア・スタジオでは、拠点にしているスタジオの他に必要に応じて、信楽焼メーカー様の工場の一角などをお借りして、スタジオとして希望される方に提供しています。

2023年夏の時点では、長野地区の散策路にある丸倍製陶、勅旨地区の敏峰工房などのスペースを提供可能です。制作する作品の傾向によりどのような場所があるのか、また、大型作品(製品)の成型、焼成などについてのご相談も受けします。お問い合わせください。

協力企業

様々なことに挑戦できる環境



「ギャラリー&キッチン@シガラキ・シェア・スタジオ」は、皆さんに使っていただくレンタルスペースです。いろいろなことを試みられる場所に育てていきたいと考えています。

将来、飲食店をやりたい人のトライアルの場、ポップアップショップ、地域で収穫した農作物を使った料理教室、陶産地信楽の特性を活かし、うつわを制作されている方と食品関連の仕事をしている方のコラボ、マーケティング調査の会場、プライベート・パーティー。などに使用していただければと思います。

スタジオ、ギャラリー、キッチンを併せ持つことで、いろいろな人が楽しみながら交流できる場所、ワーキングスペースになればよいのではというのが基本的な考えです。



ギャラリー&キッチン @シガラキ・シェア・スタジオ キッチン概要

- 住所
滋賀県甲賀市信楽町長野1140-1
- 利用人数
30名まで
- 利用可能日時
(カウンター席10席、客席20席)
9時～23時
- 定休日
不定休(ホームページでご確認ください)
- 設備・厨房機
業務用ガスレンジ
コンベクションオーブン
製氷機
コーヒーメーカー
ミキサー
フライヤー
圧力なべなどの鍋釜の類
イベント用の音響設備
プロジェクター
など

※ 信楽焼のうつわを使っただけです。



法人概要

- **法人名** 一般社団法人シガラキ・シェア・スタジオ
- **所在地** 滋賀県甲賀市信楽町長野 1140-1
- **連絡先** 一般社団法人シガラキ・シェア・スタジオ
〒529-1851 滋賀県甲賀市信楽町長野 1140-1
TEL. 0748-82-0690
URL. <http://sss-shigaraki.com/>
E-MAIL. info@sss-shigaraki.com
- **事業概要**
 1. 貸し工房及びシェアハウスの経営及び管理
 2. 陶芸の振興に関する事業
 3. ギャラリー等の小売業等での陶芸作品、製品の販売並びに輸出入
 4. レンタルギャラリー・レンタルキッチン・飲食店の経営
 5. 陶芸に関するアドバイス及びコンサルティング
 6. 陶芸家、陶芸教室のプロモーション及びマネジメント
 7. イベント、展示会、講演会等の企画、制作及び運営



スタジオ所在地

**シガラキ・シェア・スタジオ + ギャラリー & キッチン
@ シガラキ・シェア・スタジオ**

〒529-1851 滋賀県甲賀市信楽町長野 1140-1

シガラキ・シェア・スタジオ @ 敏峰工房

シガラキ・シェア・スタジオ @ 丸倍製陶

シェア・ハウス@元町モトミ

お問合せ先

スタジオ、ギャラリー、キッチン、シェアハウス等のお問い合わせ、使用申し込み等については、info@sss-shigaraki.com にお問い合わせいたします。